



KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督トーク

シライズ カフェ 『SHIRAI's CAFE』 Vol.3

レポート

2018年3月10日(土) 16:30~
KAAT 神奈川芸術劇場 1F アトリウム
芸術監督：白井 晃(演出家・俳優)

ゲスト：mama!milk

(生駒祐子:アコーディオン/清水恒輔:コントラバス)

「芸術監督の仕事のこと、演劇や音楽のことをコーヒーやワインを飲みながらお客様といろいろなお話ができれば」とスタートした「SHIRAI's CAFE」。3月10日夕方に第3弾が開かれました。ゲストはアコーディオンの生駒祐子さん、コントラバスの清水恒輔さんによるユニット、mama!milk。1階のアトリウムに設けられたオープンなライブ会場には、開演を楽しみにしているみなさんが集まってきて、飲み物を片手に談笑しています。大人のお客様が多いようです。春めいた日差しが差し込むアトリウムにはなんとも心地のいい空気が流れています。そこへ、まつもと市民芸術館プロデュース『白い病気』を観劇し終え、3階から下りのエスカレーターに乗りながら「なんだろう?」「何が行われるんだろう?」と見下ろしていたお客様が加わります。



mama!milk

ざわめきがある中、いつの間にか、お客様の前に登場していた mama!milk のお二人。清水さんが音合わせで鳴らしたコントラバスの音色が、高い天井の空間に響き渡り、SHIRAI's CAFE が〈waltz, waltz〉で幕を開けました！生駒さんのアコーディオンの、どこか懐かしく儂げなメロディが会場を包み込みます。思わず、ゆっくり体を揺らしたり、ステップを踏みたくなります。

曲の終わりごろ、白井晃芸術監督が参加して「芸術監督はどんな演目をプログラミングしたらいいのか、どんなアーティストの方々に来ていただいたらいいだろうか、またこの劇場がどんなふうにお客様と接点を持ったらいいのかなど考えているんです。その一つとしてこういう企画もやらせていただいています」とあいさつ。

白井と mama!milk の出会いは、2013年、世田谷パブリックシアターで上演されたシェイクスピアの『オセロー』でした。白井は演出を手がけました。

「ずっと mama!milk さんの音楽は聞いており、その時に初めてお声がけさせていただきました。僕はお芝居の台本を読む時は、そこにどんな曲が流れているのかなと想像するんですけど、mama!milk さんに〈ランドフォール〉という曲がありまして、清水さんのハーモニクスという奏法で弾かれる音色がすごく素敵なんです。この音の中からオセローが現れ、悲劇が起きたらどうだろうと思ったんです」となれ初めを語った白井。かたや初めて演劇公演に参加したお二人の感想は「未知の世界に飛び込



白井晃 芸術監督

むという心境」(生駒)「長いスパンでものを創るということをおぼろしくしなかったのが新鮮でした。公演にかかわるスタッフさんなどの人数が沢山いらっちゃって驚きました」(清水)だそうです。その話を受けて、出会い曲を含め、『オセロー』で演奏された曲たちがメドレーで披露されました。

両者は、新国立劇場でのシェイクスピア『テンペスト』で再び顔を合わせた後、2016年4月、

KAAT 神奈川芸術劇場で上演された『夢の劇-ドリーム・プレイ-』、父である神インドラから「地上へ降りて人々の不満や嘆きを見聞きしてこい」と送り出された少女の物語で、阿部海太郎さん、トウヤママケオさんとともに音楽を担当していただきました。

白井「あの時は4人4様で曲を作っていたんですね。この曲は清水さん担当、この曲は生駒さん担当……という感じで進めさせていただきましたが、どうでした？」

清水「お二人ともご一緒したことがあるので、人となりや音楽性は知っていました。ただお互いがフラットな状態で曲作りをするためのルールを決めるまでが大変でした。作業自体はとても楽しかったです。」

生駒「それぞれが作曲して、それを4人で演奏するというのも初めてでした。とても新鮮で楽しかったです。」

その時にトウヤマさんが書き下ろした〈19本の薔薇〉がフロアのお客様を『夢の劇』の世界へと再び誘うかのように演奏されました。

そして、『夢の劇』で主人公の少女が貧乏な弁護士と結婚し、結婚生活の苦勞を体験するシーンの一節を、白井と、お客様で朗読するという初めての試みへ。いち早く、本当にすぐさま挙手で立候補してくださった最前列の女性が相手役に。まずは一度、リハーサル。思わず白井は「一言一言、間を開けてみてください」とアドバイス。そして2度目は、劇中で実際に奏でられた〈サムタイム・スイート〉をバックに朗読を試みます。「おうちの汚れた風景が見えてきました」とのお相手の女性の感想に会場は大盛り上がり。

時には廃校や美術館など、ユニークな場所で演奏をすることもある mama!milk。白井が「ここのアトリウムはいかがですか」と問うと、「とても気持ちよく響きます」(生駒)「生の音でもよく響く楽器の組み合わせが僕らのコントラバスとアコーディオン」(清水)「場所と友達になれば大丈夫です。この場所はどんな響きを持っているかを確認するために、リハーサルではいくつかの曲を弾くんです」(生駒)。前日のリハーサルで、お二人が弾くクラシックを初めて聞いたと、白井はその時に奏でられた曲サン=サーンス〈白鳥〉をリクエスト。改めて「お二人の奏でる音楽は、自分の過去の記憶、小学校時代に音楽室から漏れ聞こえてきたような音なんかも含めて甦らせてくれるところが素敵なんです」(白井)と魅力を語りました。

そして締めくくりはなんと、mama!milk が書き下ろしてくれた曲に、白井が歌詞をつけて自ら歌うというサプライズ!

「過去の2回のSHIRAI's CAFE ではジャズのナンバーに僕がそれなりの歌詞をつけて歌ったんですという話をしたら、せっかくだから新しい曲を作りますとおっしゃってくださったんです。いただいた曲にどんな歌詞をつけたらいいか悩みましたが、家族のこと、実家に暮らす母のこと、明日は3月11日ですけど、2011年のその日に予定していた公演の幕が開けられなかったこと、そんないろいろ

を思い出して作った歌です。まだタイトルはないんですけど」とメランコリックな、でも温かみのある曲にのせて、つぶやくように歌う白井。

あなたの声が 聞こえる間に
手を伸ばし 触れる
静かに 響く
音色を たぐり寄せて

その先はまたいつか再び聴くことができる機会を願って……。

普段の生活でもライブでも自然光を大事にしていると語っていたmama!milk。お二人が紡いだ60分は、小春日和の気持ちのいい光とのコラボレーションで生まれた時間のようでした。

【当日の演奏曲】

*いずれも白井晃のリクエストにより

- waltz, waltz
- Land fall
- 19本の薔薇
- sometime sweet
- 白鳥 (サン=サーンス「動物の謝肉祭」より)
- ao
- untitled (今回のためのオリジナル曲)

レポート：今井浩一